

川崎市

モデル圏域 北部圏域（多摩区・麻生区）

支援のすそ野を拡げること を目指して

※ 平成16年度から、長期入院者への退院の意欲に向けた働きかけを行う部署を行政機関の中に設置し、そこを中心に地域の相談支援事業所と地域移行を進めてきました。平成24年度からの総合支援法の個別給付化に伴い、これまで以上に相談支援事業所と連携を図り、地域移行を進める必要があり、そのための人材育成研修の取組を平成25年度より開始しました。平成28年度からは、事業実施体制の変更を行い、協議会については地域自立支援協議会の専門部会として開催しています。

1 平成30年度の達成目標と現時点での進捗状況

平成30年度の達成目標	現時点での進捗状況
1. 医療、福祉関係機関職員相互の顔の見える関係づくり	下記の事項について定例の打ち合わせ会等を実施している。 1 個別支援の振り返り(第1回 8/3実施)、 2 医療機関と地域関係機関と共同した病院内プログラム実施及び振り返り(3回実施)、意見交換会の開催(3回開催)
2. 医療、福祉関係機関職員を対象にした人材育成、バックアップ体制の充実	密着アドバイザーを中心に、個別支援の進捗に合わせバックアップを実施している。
3. 社会資源の充実、市民への普及啓発	研修会の開催を企画検討中
4. 他圏域(南部・中部)への構築支援事業の拡大を目的としたアセスメントの実施	南部・中部圏域の医療・福祉関係機関へのヒヤリングを企画中

2 圏域の取組における強みと課題

【特徴(強み)】

川崎市を3つの南部・中部・北部の地域リハセンター圏域で見ると、それぞれの特徴がある。
 南部…万対病床数が少ない、中部…一部の区で地域移行の取り組みがある、北部…関係機関のネットワークが形成されている
 各圏域の特徴を生かし、構築支援事業を実施していく可能性がある。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する視点別の認識(取組)	
支援のすそ野を拡げるために ・医療、地域関係機関相互の顔の見える関係づくり ・医療、地域関係機関職員を対象にした人材育成、バックアップ体制の充実 ・社会資源の充実、普及啓発	・川崎市地域自立支援協議会精神障害者地域移行・地域定着支援部会での取り組み ・長期目標、短期目標を設定し、3つのワーキンググループ(連携、人材育成、社会資源)により取り組む	行政側	行政、医療、事業者、関係機関が一体となって取り組む
		医療側	
		事業者側	
		関係機関・住民等	
同上	・北部圏域(多摩区・麻生区)をモデル圏域と設定し、地域連携支援事業を継続実施し、検証する。 ・南部・中部圏域でのヒアリングとアセスメントの実施	行政側	行政、医療、事業者、関係機関が一体となって取り組む
		医療側	
		事業者側	
		関係機関・住民等	

課題解決の達成度を測る指標	指標の設定理由	現状値	目標値(H30)
①モデル個別支援事業の実施事業所の拡大	支援のすそ野を拡げる。	個別支援の実施(7か所)	個別支援の実施(8か所)
②モデル医療機関と地域関係機関との顔の見える関係づくり	支援のすそ野を拡げる。	退院プログラムの共同実施(3回)・医療機関アンケート(1回)	退院プログラムの共同実施(9回)・医療機関アンケート(1回)
③人材育成	支援のすそ野を拡げる。	研修会の企画	支援経験者を含めた研修会の実施(1回)

3 病院（医療機関）との連携状況

- 会議体の事務局に協力医療機関相談室から参加していただくことで、各医療機関での取り組みや状況を共有することができる。
- 会議体へも協力医療機関相談室から参加していただき、地域支援関係機関と情報交換を図ることができる。
- 協力医療機関あてにアンケート調査を実施する。

4 現時点での課題・悩み

- ・モデル圏域内では、協力医療機関、密着アドバイザーの協力のもと、支援のすそ野を広げる活動が展開できてきている実感があるものの、他圏域への展開が課題ではあるが、波及効果が見られる
- ・地域支援事業者の中に、これまでの経過から精神障害がある方の支援に苦手感のある事業所があり、苦手感を軽減する取り組みが必要